

大正十年十二月廿一日

書記官室



秘書官

書記官長

係

今般外院事務所廳令新築落成以來凡廿四日

官城內(内櫻田門内)下移轉可致候間以段及御

通知候也

追了同日以降電話番號左ノ通變更相成候

關係ノ及御通知候也

大正十年十二月 日

樞密院

樞密院

三

電話凡ノ内 一九二五番

(秘書課室)

同 一九二六番

(會計課室(角直室兼用))

同 一九二七番

(書記官長室兼用)

同 一九二八番

(書記官室兼用)

属



57

移轉通知先

一 庫庫

各行下記、數字、通書

内閣書記官室

二 内閣總理大臣秘書官

法制局

二 國務院

拓殖局

二 國信局

内務書記官室

十 内務大臣秘書官

外務書記官室

十 各省大臣秘書官

各省大臣官房

一 行政裁判所

朝鮮總督府出張局事務所

一 臺灣總督府出張所

関東廳出張局事務所

一 樺太廳出張局事務所

貴族院事務局

一 衆議院事務局

會計検査院

一 東京府廳

警視廳

一 臨時議院建築局

官内大臣官房

一 樞密院

秘書課

一 高等考査官室

庶務課

一 帝室會計審査局

文書課

一 侍從長官房

皇官警備部

一 侍從職

武部職

一 東洋職

宗秩寮

一 東洋職

内藏寮

一 東洋職

内匠寮

一 東洋職

内匠寮

一 東洋職



今般宮城内内櫻田門内本院事務新廳舎落成  
ニ付来ル二十四日(當日大雨ナラハ翌日トス)移轉可致候間此段  
及御通知候也

追テ同日以降電話番號左ノ通変更相成候  
間併テ及御通知候也

大正十年十二月二十一日

樞密院

電話丸内

一九二五番

(秘書課室  
庶務課室)

同

一九二六番

(會計課室(宿直室兼用))

同

一九二七番

(書記官長室 兼用)

同

一九二八番

(書記官室 兼用)

属

天正十年十二月廿日

書記官

秘書官

書記官

条

今般外院事務所廳舎新築落成、自來水、電氣、

官城内、内櫻田門内、移轉可致候間、以段次通知

申上候也

追、同日以降、電話増號左、通變更相成候間

併、御通知申上候也

天正十年十二月 日 樞密院書記官

樞密院

三二、二

電話丸由

一九二五番

秘書課室

同

一九二六番

會計課室(初等室兼用)

同

一九二七番

書記官長室兼用

同

一九二八番

書記官室兼用

親王家 三

正副議長

大臣

顧問官

二四

書記官長

各書記官

四

山縣公爵邸(小倉)

山縣元帥副官

二

上杉晴託

一

今般宮城内内櫻田門内本院事務所新廳舎落成  
二付来ル二十四日(當日大雨十八日)移轉可致候間此致  
御通知申上候也

追テ同日以降電話番號左ノ通変更相成候  
間併テ御通知申上候也

大正十年十二月二十一日 樞密院書記官

- 電話丸ノ内 一九二五番 (秘書課室)
- 同 一九二六番 (會計課室(宿直室兼用))
- 同 一九二七番 (書記官長室 兼用)
- 同 一九二八番 (書記官室 兼用)



大正十年十二月廿一日

書記官

属

書記官長

条

本院事務所来レ三五所官域内内櫻田門内へ移轉  
可致候<sup>同日</sup>以後諸事務所先御使物<sup>右</sup>移  
轉先<sup>御</sup>轉送相成度及御依頼候也

大正十年十二月廿一日

樞密院

麴田御使物宛

樞密院

又

本文同上

二番地

追々從來麴田區元衛所樞密院官舎宛御使物下  
樞密院事務所宛<sup>毛ノ下ノ</sup>閉<sup>往</sup>誤<sup>取</sup>達有之候  
行向後有種儀集之様御<sup>意</sup>相<sup>度</sup>申<sup>候</sup>

大正十年十二月廿一日

樞密院

東京中央御使物宛